

「心電図ハンター 心電図×非循環器医 1 胸痛/虚血編」〈1版3刷〉正誤表  
(2020年9月現在)

このたびは「心電図ハンター 心電図×非循環器医 1 胸痛/虚血編」〈1版3刷〉をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書に以下の誤りがございましたので、ここに訂正・加筆させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

45頁 表1  
(誤)

表1 心電図変化と各責任血管の狭窄の予測値

責任血管	心電図変化	感度 (%)	特異度 (%)	PPV (%)	NPV (%)	文献
RCA	aVL で ST 低下 1 mm 以上	100	38	81	100	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
	I で ST 低下 1 mm 以上	70	63	—	—	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
	aVL が V1 より ST 低下 かつ III で II よりの ST 上昇	70~97	50~100	89~100	46~80	Herz ら (1997) <sup>4)</sup>
	aVL で ST 低下 (1 mm 以上) かつ S/R 比が 0.33 未満 <sup>*1)</sup>	92	94	97	65	Bayram ら (2004) <sup>5)</sup>
	III で II よりの ST 上昇	86	94	95	56	Bayram ら (2004) <sup>5)</sup>
LCA	aVL で ST 低下 (1 mm 以上) かつ S/R 比が 0.33 未満 <sup>*1)</sup> かつ II で III よりの ST 上昇	83	100	100	41	Bayram ら (2004) <sup>5)</sup>
	V1 から V3 で ST 上昇 かつ V1 で ST 上昇 (>2.5 mm) または右脚ブロックと異常 Q 波	12	100	100	60	Kontos ら (1997) <sup>6)</sup>
	V1 から V3 で ST 上昇 かつ II III aVF で ST 低下	34	98	93	68	Kontos ら (1997) <sup>6)</sup>
LCX	aVL で陰性 T 波	76.7	71.4	92	41.7	Hassen ら (2014) <sup>7)</sup>
	I で ST が基線上または ST 上昇 かつ V5V6aVL のいずれかで 0.5 mm 以上の ST 上昇	83	96	91	93	Bairey ら (1987) <sup>8)</sup>
	V5V6aVL のいずれかで 0.5 mm 以上の ST 上昇 かつ V1 か V2 で ST 低下	87	57	29	94	Kontos ら (1997) <sup>3)</sup>
	I で ST 低下 (1 mm 以上)	71	65	—	—	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
LCX	aVL で ST 低下 (1 mm 以上)	86	100	—	—	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
	aVL で ST 低下 (1 mm 以上) かつ S/R 比が 0.33 未満 <sup>*1)</sup> かつ II で III よりの ST 上昇	87	100	100	97	Bayram ら (2004) <sup>7)</sup>

PPV：陽性尤度比，NPV：陰性尤度比，RCA：右冠動脈，LCA：左冠動脈，LCX：回旋枝。  
<sup>\*1)</sup> S/R 比：S 波と R 波の高さの絶対値の比

[2020/9/17]

(正)

表1 心電図変化と各責任血管の狭窄の予測値

責任血管	心電図変化	感度 (%)	特異度 (%)	PPV (%)	NPV (%)	文献
RCA	aVL で ST 低下 1 mm 以上	100	38	81	100	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
	I で ST 低下 1 mm 以上	70	63	—	—	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
	aVL が V1 より ST 低下 かつ III で II よりの ST 上昇	70~97	50~100	89~100	46~80	Herz ら (1997) <sup>4)</sup>
	aVL で ST 低下 (1 mm 以上) かつ S/R 比が 0.33 未満 <sup>*1)</sup>	92	94	97	65	Bayram ら (2004) <sup>5)</sup>
	III で II よりの ST 上昇	86	94	95	56	Bayram ら (2004) <sup>5)</sup>
LCA	aVL で ST 低下 (1 mm 以上) かつ S/R 比が 0.33 未満 <sup>*1)</sup> かつ II で III よりの ST 上昇	83	100	100	41	Bayram ら (2004) <sup>5)</sup>
	V1 から V3 で ST 上昇 かつ V1 で ST 上昇 (>2.5 mm) または右脚ブロックと異常 Q 波	12	100	100	60	Kontos ら (1997) <sup>6)</sup>
	V1 から V3 で ST 上昇 かつ II III aVF で ST 低下	34	98	93	68	Kontos ら (1997) <sup>6)</sup>
LCX	aVL で陰性 T 波	76.7	71.4	92	41.7	Hassen ら (2014) <sup>7)</sup>
	I で ST が基線上または ST 上昇 かつ V5V6aVL のいずれかで 0.5 mm 以上の ST 上昇	83	96	91	93	Bairey ら (1987) <sup>8)</sup>
	V5V6aVL のいずれかで 0.5 mm 以上の ST 上昇 かつ V1 か V2 で ST 低下	87	57	29	94	Kontos ら (1997) <sup>3)</sup>
	I で ST 低下がないこと	71	65	—	—	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
LCX	aVL で ST 低下がないこと	86	100	—	—	Hasdai ら (1995) <sup>3)</sup>
	aVL で ST 低下 (1 mm 以上) かつ S/R 比が 0.33 未満 <sup>*1)</sup> かつ II で III よりの ST 上昇	87	100	100	97	Bayram ら (2004) <sup>7)</sup>

PPV：陽性尤度比，NPV：陰性尤度比，RCA：右冠動脈，LCA：左冠動脈，LCX：回旋枝。  
<sup>\*1)</sup> S/R 比：S 波と R 波の高さの絶対値の比

(2018年5月現在)

このたびは「心電図ハンター 心電図× 非循環器医 ①胸痛/ 虚血編<1版2刷>」をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書に以下の誤りがございましたので、ここに訂正・加筆させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

192頁 下から5行め

(誤) これはテント上T波…? .....

(正) これはテント状T波…? .....

192頁 下から1行め

(誤) ちなみに、高カリウム血症のテント上T波は.....

(正) ちなみに、高カリウム血症のテント状T波は.....

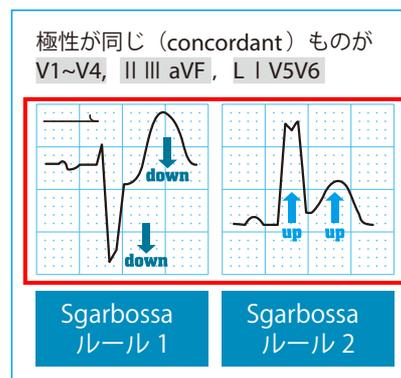
194頁 下から6行め

(誤) やはりテント上Tは有名でいちばん.....

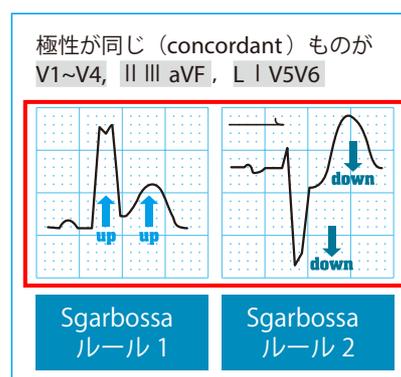
(正) やはりテント状Tは有名でいちばん.....

212頁 STEP1の右図

(誤)



(正)



「心電図ハンター 心電図 × 非循環器医 ①胸痛 / 虚血編<1版1刷>」正誤表  
(2016年12月現在)

---

このたびは「心電図ハンター 心電図 × 非循環器医 ①胸痛 / 虚血編<1版1刷>」をご購入いただきまして誠にありがとうございます。本書に以下の誤りがございましたので、ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

---

107 頁 下から4行目

(誤) 比率は  $a/b=2\text{mm}/10\text{mm}=0.2$  と  $2.5$  未満なので、…

(正) 比率は  $a/b=3\text{mm}/21\text{mm}=0.14$  と  $0.25$  未満なので、…

107 頁 下から6行目

(誤) …ST 上昇が  $2\text{mm}$  前後で0点です。

(正) …ST 上昇が  $3\text{mm}$  前後で0点です。

108 頁 図10

(誤)  $a/b=2\text{mm}/10\text{mm}=0.2$

(正)  $a/b=3\text{mm}/21\text{mm}=0.14$

117 頁 上から2～3行目

(誤) V1 ではST がぎりぎり  $5.5\text{mm}$  上がって見えますが、V2 は  $3.5\text{mm}$ 、…

(正) V2 ではST がぎりぎり  $5.5\text{mm}$  上がって見えますが、V1 は  $3.5\text{mm}$ 、…